

令和7年度

顕彰・研究助成助成事業 採択者一覧

1. 顕彰	1 頁
2. 研究助成	1 頁 ～ 4 頁
3. 多施設共同研究助成	5 頁
4. 内視鏡医学研究医海外短期留学助成	6 頁
5. 内視鏡医学研究医海外派遣助成	7 頁
6. 海外研究医受入助成	8 頁
7. 研究会助成	9 頁
8. 令和7年度 顕彰・研究助成実績計（件数・金額）	9 頁
9. 贈呈式レポート（令和8年2月7日開催）	10 頁 ～ 14 頁

注 記：

- ・ 採択者の皆様の敬称は省略させていただいております。
- ・ ご所属およびお役職は採択時点のものです。

令和8年3月13日

公益財団法人内視鏡医学研究振興財団

顕彰 4件

五十音順・敬称略

氏名	現職（施設名）	顕彰理由
乾 和郎	医療法人山下病院 名誉院長	膵胆道疾患に対する様々な内視鏡診断および治療の開発と臨床応用に尽力し、国内外への普及に貢献した功績
金子 公一	埼玉医科大学 名誉教授	胸腔鏡手術の我が国での地位確立に寄与し、呼吸器内視鏡の専門医制度の発展に貢献した功績
徳村 弘実	東北労災病院 名誉院長	腹腔鏡下胆嚢・総胆管結石術の普及に貢献し、手術の標準化と患者のQOL向上に貢献した功績
門馬 久美子	公益財団法人早期胃癌検診協会 理事長	早期食道癌に対する内視鏡診断と内視鏡治療の普及および中・下咽頭癌の早期発見の普及に貢献した功績

研究助成 A 2件

五十音順・敬称略

主任研究者	施設名・所属科	役職	研究テーマ
大塚 崇	東京慈恵会医科大学 呼吸器外科	教授	極細径ファイバースコープによる難治性気胸の治療法の開発
蓑田 洋介	九州大学 病態制御内科学	助教	FDの病態評価を可能とする内視鏡検査法の開発：胃内圧と粘膜バリア機能の統合解析

研究助成 B 40件

五十音順・敬称略

主任研究者	施設名・所属科	役職	研究テーマ
合川 公康	埼玉医科大学 国際医療センター 消化器病センター	教授	バイオミメティクス技術を用いた防汚機能付加胆管ステントの開発
石川 裕美子	日本医科大学千葉北総病院 消化器内科	助教 医員	内視鏡的手縫い縫合法を用いた内視鏡的スリーブ状胃形成術の開発
上野 晃子	高知医療センター 産婦人科	婦人 科長	腹腔鏡下子宮筋腫核出術における ICG 静注による Myoma Pseudo Capsule (MPC) 温存術式の有用性の検討
大谷 正侑	国立がん研究センター 東病院 呼吸器外科	がん専門 修練医	内視鏡手術映像を用いた多面的熟練度評価人工知能モデルの構築
大橋 真也	京都大学医学部附属病院 先制医療・ 生活習慣病研究センター	特定 准教授	消化器内視鏡検診 NBI 観察時に見られる食道微小 brownish area (褐色域) 病変を有する健康受診者の疫学・遺伝子解析研究
堅田 親利	京都大学 がん免疫 PDT 研究講座	特定 准教授	食道癌患者に対する光線力学的療法 (PDT: photodynamic therapy) に関する全国登録調査
門田 智裕	国立がん研究センター 東病院 消化管内視鏡科	医長	臨床病期 IB/II/III 食道癌に対する術前治療効果の内視鏡的評価と予後との関連の検討

主任研究者	施設名・所属科	役職	研究テーマ
川見 明央	筑波大学小児外科	医員	臨床実用を目指した極細径内視鏡の開発
衣笠 秀明	岡山大学学術研究院 医療開発領域 消化器内科	助教	人工知能ディープラーニングによるヴァーチャル色素内視鏡画像変換技術開発
黄瀬 大輔	滋賀医科大学 内科学講座呼吸器内科	講師	重症 COPD に対する気管支内視鏡的治療の新たな意義：肺過膨張改善による全身状態の変化に関する前向き研究
木村 英憲	滋賀医科大学 医学部附属病院 光学医療診療部	講師	胃腫瘍に対するゲル浸漬下内視鏡的粘膜切除術の治療成績に関する多施設共同研究
桑井 寿雄	広島大学病院 消化器内視鏡医学講座	寄付 講座教授	難治性食道良性狭窄の革新的治療を目指した新規生体吸収性ステントの開発
小林 聡	九州大学大学院 医学研究院泌尿器科	講師	本邦における尿管鏡支援ロボットへのパラダイムシフトを見据えた軟性尿管鏡 AI-based SaMD 開発研究
齋藤 圭	日本大学医学部附属板橋病院 消化器肝臓内科	准教授	高脂質・糖質制限経腸栄養剤の ERCP 前投与による ERCP 後膵炎予防効果の検討
島谷 昌明	関西医科大学 総合医療センター 消化器肝臓内科	教授	膵管空腸吻合部狭窄/閉塞症例に対する Gel Immersion Endoscopy を応用した新規内視鏡治療法の開発
鈴木 健人	日本医科大学付属病院 呼吸器外科	助教	肺癌に対する新しい経気管支鏡的光治療法 iTAP の開発
高井 理彩	東京大学大学院 医学系研究科産婦人科	大学院生	カメラスコープ先端・剥離領域間の距離の自動推定による腹腔鏡下子宮全摘術技能評価 AI モデルの構築
高田 和典	静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科（下部消化管）	医長	非有茎性大腸腺腫に対する新たな低侵襲治療の安全性を検証する多施設前向き共同研究
高本 健史	東京大学医学部 肝胆膵・人工臓器移植外科	講師	拡張現実（AR）技術を用いた内視鏡映像重畳型・術中超音波システムの肝胆膵内視鏡外科における臨床的有用性の検証
田丸 弓弦	NHO 呉医療センター 内視鏡内科	医師	大腸 ESD 後の post-ESD coagulation syndrome に関する多機関共同ランダム化比較試験 ～入院期間短縮は可能か？～
中村 拳	日本医科大学武蔵小杉病院 消化器内科	助教 ・医員	ELST-blue と apolipoprotein A2-i Index を用いた早期慢性膵炎の層別化の検討
中村 卓也	信州大学医学部 脳神経外科	助教	脳室内病変に対する神経内視鏡下カテーテルの新規開発
橋口 慶一	長崎大学病院 光学医療診療部	講師	カダバー・トレーニングシステムによる上部消化管内視鏡治療教育システムの構築

主任研究者	施設名・所属科	役職	研究テーマ
橋本 浩平	杏林大学医学部附属病院 呼吸器外科	診療 科長 ・教授	低侵襲スリーブ気管支形成術におけるロボットと胸腔鏡アプローチの学習曲線の比較
濱路 政嗣	奈良県立医科大学 胸部・心臓血管外科	准教授	未来の内視鏡手術における、新しい吸収性素材を用いた自動縫合器の開発
平塚 孝宏	大分大学医学部 総合外科・地域連携学講座	准教授	閉塞性大腸癌に対する新たな治療戦略構築に向けた Covered ステントの ctDNA モニタリングによる腫瘍学的影響の前向き検証
福井 崇将	京都大学大学院医学研究科 呼吸器外科	大学 院生	蛍光気管支鏡を用いた気管血流評価法
藤本 愛	東邦大学医療センター 大森病院 消化器内科	准教授	Red Dichromatic Imaging による早期胃癌深達度診断の可能性～粘膜下層深部浸潤癌と潰瘍性病変の鑑別における探索的臨床研究～
前川 聡	大阪けいさつ病院 消化器内科	副部長	80 歳以上食道表在癌患者における骨格筋・脂肪量評価に基づく治療選択モデルの開発
増子 弘明	新潟大学大学院 医歯学総合研究科 消化器内科学分野	大学 院生	内視鏡スコープの簡易洗浄プロセスの確立と Aggregation-Induced Emission 蛍光染色法を用いた迅速評価法の提案
松本 一宏	慶應義塾大学医学部 泌尿器科	講師	ロボット支援下前立腺全摘除術教育の高度化を目指した、患者特異的・生体類似型臓器モデルの開発
松本 啓志	川崎医科大学 消化器内科学	准教授	内視鏡下バイオフィルム分類システムの確立と大腸がんリスク層別化への応用
村田 雅樹	独立行政法人国立病院機構 京都医療センター 消化器内科	医師	Helicobacter pylori 未感染胃癌における Non-Helicobacter pylori Helicobacter 感染症の実態解明：多施設共同前方視的観察研究
八木 伸	横浜市立大学附属病院 肝胆膵消化器病学	助教	胆道閉塞を伴う切除可能/切除可能境界膵癌に対する、超音波内視鏡下胆管胃吻合術による術前胆道ドレナージに関する多機関共同前向き観察研究
山口 太輔	佐賀大学医学部 内科学講座消化器内科	特定 講師	大腸内視鏡シミュレーターによる専修医の大腸内視鏡挿入技能向上：国際多施設クラスターランダム化比較試験
山重 大樹	国立がん研究センター 中央病院 肝胆膵内科	修練医	マルチモーダル AI を用いた膵神経内分泌腫瘍 Grade 予測システムの開発
山下 泰伸	和歌山県立医科大学 第二内科	講師	胆道閉塞を伴う切除不能胆道癌に対するゲムシタビン+シスプラチン+免疫チェックポイント阻害薬に内視鏡的ラジオ波焼灼術併用治療の有効性を検証する多施設共同無作為化比較第 III 試験

主任研究者	施設名・所属科	役職	研究テーマ
横田 武尊	福島県立医科大学 東白川整形外科アカデミー	助教	内視鏡下屈筋腱縫合の新規手術法と専用デバイスの開発研究
柳 舜仁	川口市立医療センター 消化器外科	副部長	AI 手術支援の臓器損傷認識・予防効果を検証するビデオレビュー多施設共同研究
渡邊 健太	秋田大学医学部附属病院 消化器内科	特任 助教	健診内視鏡におけるバレット食道の10年間の経時的変化についての検討

(新規) 第1年次

五十音順・敬称略

主任研究者	施設名・所属科	役職	研究テーマ
阿部 清一郎	国立がん研究センター 中央病院 内視鏡科	医長	食道癌内視鏡的粘膜下層剥離術後狭窄に対する EBD 単独療法およびステロイド局注併用 EBD 療法のランダム化比較第Ⅲ相試験 (JCOG2215)
山田 玲子	三重大学医学部附属病院 消化器肝臓内科	講師	切除不能悪性遠位胆管狭窄に対する 6mm 径と 10mm 径の Fully covered Self-Expandable Metal Stents の多施設共同前向き比較試験

(継続) 第2年次

五十音順・敬称略

主任研究者	施設名・所属科	役職	研究テーマ
笹平 直樹	がん研究会有明病院 肝胆膵内科	部長	切除不能膵癌に伴う遠位胆管閉塞に対するカバー付き金属ステント不応後の Duckbill 型逆流防止弁付き金属ステント治療に関する多施設共同無作為化比較試験
吉田 将雄	静岡県立 静岡がんセンター 内視鏡科	医長	20mm 以下の非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍に対する標準治療を確立する多施設共同ランダム化比較試験

(継続) 第3年次

五十音順・敬称略

主任研究者	施設名・所属科	役職	研究テーマ
井上 達哉	日本医科大学 呼吸器外科	病院講師	末梢型肺癌に対する光線力学的治療 (PDT) におけるレーザードシメトリーに関する後方視的研究
関口 正宇	国立がん研究センター 中央病院 内視鏡科/検診部門	医長	人工知能によるコンピュータ検出支援を用いた大腸内視鏡検査の大腸がん検診における有効性と医療経済性評価に関するアジア多施設共同研究
山崎 泰史	岡山大学病院 光学医療診療部	助教	10-20mm の大腸鋸歯状病変に対するコールドスネアポリペクトミーの有用性を検証する非盲検化ランダム化比較試験

主任研究者	施設名・所属科	留学先	研究テーマ
大西 峻	鹿児島大学・小児外科	SSM Health Cardinal Glennnon Children's Hospital	小児呼吸器内視鏡外科手術における安全 な手技習得と症例経験蓄積による治療成 績向上に関する研究
山口 太輔	佐賀大学医学部附属病院 消化器内科	Mayo Clinic Arizona, Gastroenterology	AI 搭載大腸内視鏡診断支援とコロンモデ ル挿入訓練を組み合わせた技能習得シス テムの有用性と国際運用可能性の研究

研究者	施設名・所属科	発表 学会名	開催地	開催期間
溝部 玲衣	慶應義塾大学病院 内視鏡センター	ESGE days	スペイン	4月3日～5日
伊藤 守	東京慈恵会医科大学 内視鏡医学講座	DDW	アメリカ	5月3日～6日
石川 和真	札幌医科大学 腫瘍内科学講座	DDW	アメリカ	5月3日～6日
笠原 健大	東京医科大学病院 消化器外科・小児外科	EAES	セルビア	6月17日～20日
馬場 七織	千葉大学大学院医学研究院 産婦人科学	APAEG	中国	9月4日～7日
高井 理彩	東京大学大学院医学系研究科 生殖・発達・加齢医学専攻	APAEG	中国	9月4日～7日
小林 憲市	滋賀医科大学 泌尿器科学講座	WCE	アメリカ	9月8日～12日
豊澤 惇希	岡山大学病院 消化器内科	UEGW	ドイツ	10月4日～7日
高橋 春奈	静岡県立総合病院 消化器内科	UEGW	ドイツ	10月4日～7日
清水 孟	仙台市医療センター 仙台オープン病院 消化管・肝胆膵内科	UEGW	ドイツ	10月4日～7日
神田 修平	京都大学大学院医学研究科 肝胆膵・移植外科学	ACS	アメリカ	10月4日～7日
菅野 圭	金沢大学附属病院 消化管外科	WCES/ELSA	シンガポール	11月5日～8日
金丸 薫子	神戸大学医学部附属病院 消化器内科	APDW	シンガポール	11月18日～22日
柳 舜仁	川口市立医療センター 消化器外科	SAGES	アメリカ	3月25日～28日
笠井 麻衣	戸田中央総合病院 外科・消化器外科	SAGES	アメリカ	3月25日～28日
真崎 純一	東京医科大学病院 消化器外科・小児外科	SAGES	アメリカ	3月25日～28日

海外研究医	所属	国籍	受入研究者	受入施設
MARIA ORTS INFANTE	University Hospital of Getafe, Madrid	スペイン	斎藤 豊	国立がん研究センター 中央病院
BAYARSAIKHAN ochirchuulgan	Mongolian National University of Medical Science	モンゴル	松田 尚久	東邦大学医療センター 大森病院
Didik Prasetyo	Moewardi Hospital Sebelas Maret University	インドネシア	松田 尚久	東邦大学医療センター 大森病院
Jasmine Bajracharya	Nepal Medical college Teaching Hospital	ネパール	村上 雅一	鹿児島大学大学院
泰 斌	The Second Affiliated Hospital of Xi' an Jiaotong University	中国	入澤 篤志	獨協医科大学
Cemil Burak Kulle	イスタンブール 大学医学部	トルコ	仲田 興平	九州大学病院
Nguyen Tra My	ベトナム国家大学 ハノイ校医科薬科学部	ベトナム	仲田 興平	九州大学病院
Tran Thi Ngoc Lan	ホーチミン医療センター 内視鏡科	ベトナム	仲田 興平	九州大学病院
Tristan Paulo Madrigal	フィリピン総合病院 消化器内科	フィリピン	仲田 興平	九州大学病院
CHAN Raingsey	Preah Ang Duong Hospital, Phnom Penh, Cambodia	カンボジア	大村 和弘	東京慈恵会医科大学
Aynasha Letchmikanthan	Hospital Sultanah Bahiyah, Kedah	マレーシア	大村 和弘	東京慈恵会医科大学
Satria Dipo Putra Asmoro	RS Khusus THT Bedah KL Proklamasi , Jakarta, Fatmawati Hospital	インドネシア	大村 和弘	東京慈恵会医科大学

開催日順・敬称略

研究会名	代表者	所属	開催日
東京国際内視鏡ライブセミナー	井上 晴洋	昭和医科大学江東豊洲病院 消化器センター	4月12日～13日
仙台内視鏡治療ライブセミナー	伊藤 啓	仙台オープン病院 消化管・肝胆膵内科	6月21日
国際消化器内視鏡セミナー	工藤 進英	昭和医科大学 国際消化器内視鏡研修センター	7月19日
北海道ESDライブセミナー	近藤 仁	斗南病院 消化器内科	11月29日
東京メトロポリタン 国際内視鏡ライブ	糸井 隆夫	東京医科大学 消化器内科	11月23日～24日
関西消化器内視鏡ライブコース	竹中 完	近畿大学 消化器内科	2月8日
和歌山消化器内視鏡ライブ デモンストレーションセミナー	北野 雅之	和歌山県立医科大学 第二内科	3月1日
近畿内視鏡治療研究会 ライブセミナー	豊永 高史	川崎医科大学 消化器内科	3月14日

令和7年度 顕彰・研究助成実績計（件数・金額）

事業名	件数	助成金合計（千円）
顕彰	4	2,000
研究助成	42	22,000
多施設共同研究助成	7	7,000
内視鏡医学研究医海外短期留学助成	2	1,000
内視鏡医学研究医海外派遣助成	16	4,100
海外研究医受入助成	12	5,300
研究会助成	8	2,400
実績総額	91	43,800

令和7年度 顕彰・研究助成贈呈式

令和8年2月7日（土）、令和7年度 顕彰・研究助成贈呈式を執り行いました。

当日は顕彰受賞者および研究助成採択者の先生方にご出席いただき、顕彰および研究助成の贈呈を行いました。

式典では、理事長より本財団の助成事業の趣旨および研究活動への期待について挨拶があり、その後、顕彰の授与および研究助成金の贈呈が行われました。

本資料では、顕彰を受賞された先生方からいただいたご挨拶の一部をご紹介します。



【 顕彰受賞者 】

五十音順・敬称略

氏名	現職（施設名）	顕彰理由
乾 和郎	医療法人山下病院 名誉院長	膵胆道疾患に対する様々な内視鏡診断および治療の開発と臨床応用に尽力し、国内外への普及に貢献した功績
金子 公一	埼玉医科大学 名誉教授	胸腔鏡手術の我が国での地位確立に寄与し、呼吸器内視鏡の専門医制度の発展に貢献した功績
徳村 弘実	東北労災病院 名誉院長	腹腔鏡下胆嚢・総胆管結石術の普及に貢献し、手術の標準化と患者のQOL向上に貢献した功績
門馬 久美子	公益財団法人早期胃癌検診協会 理事長	早期食道癌に対する内視鏡診断と内視鏡治療の普及および中・下咽頭癌の早期発見の普及に貢献した功績

山下病院 名誉院長 乾 和郎 先生



この度は、伝統ある内視鏡医学研究振興財団の顕彰をいただき、誠にありがとうございます。
理事長の五十嵐良典先生をはじめ関係の皆様には厚く御礼申し上げます。

私は、1979年に名古屋大学医学部を卒業後、愛知県安城市にある八千代病院で研修を始めました。当時、名古屋大学第一外科の講師だった二村雄次先生に胃カメラをはじめ、ERCP・EST、PTCD・PTCS、血管造影などを教えていただきました。中でも、膵管口切開術や経皮経肝胆嚢内視鏡（PTCCS）といった世界で初めての手技を一緒に行う機会に恵まれました。PTCCSは当財団の1985年度研究助成を受けております。

1984年、癌研究会付属病院での半年間の研修後、名古屋大学第二内科に入局しました。そこで、2年前にご逝去されました中澤三郎先生が率いる第六研究室（通称6研）に所属し、中澤先生の薫陶を受け、さまざまな内視鏡を用いた診断法や治療法の開発に携わることができました。1989年に中澤先生が藤田保健衛生大学坂文種報徳會病院（現藤田医科大学ばんだね病院）に教授として赴任されるのを機に、兄弟子である芳野純治先生とご一緒させていただきました。

この間、1991年度に「内視鏡的乳頭部圧測定法による乳頭機能の臨床的検討」、1994年度に「MR内視鏡による消化器癌の診断」、2000年度に「3D-IDUSによる膵胆道癌の3次元画像診断の新しい展開」というテーマで当財団の研究助成を受賞しましたこと、感謝いたしております。MR内視鏡とIDUSは世界中から注目され、海外での学会報告は勿論、招待を受けて講演する機会も多くあり、素晴らしい経験をさせていただきました。内視鏡に関する臨床研究では、名大二内6研グループの関連病院である山下病院、豊橋市民病院、半田市立半田病院、公立陶生病院などの先生方に大変お世話になりました。また、研究開発に多大なる熱意をもって取り組んでいただいたオリンパス関係者の方々にも心から感謝申し上げます。

本日このような名誉ある顕彰をいただけましたことは、中澤先生をはじめ、名大二内6研、藤田医科大学ばんだね病院消化器内科の先生方、さらに開発に関係していただいた方々のおかげと厚く御礼を申し上げます。

最後になりますが、本財団が今後も日本の内視鏡医学の研究発展に寄与していただくことを祈念して、私のご挨拶とさせていただきます。

本日は誠にありがとうございました。

埼玉医科大学 名誉教授 金子 公一 先生



この度は内視鏡医学研究振興財団の顕彰をいただき身に余る光栄でございます。誠に有難うございます。財団理事長の五十嵐良典先生ならびに関係の皆様へ厚く御礼申し上げます。

私は1978年に東北大学を卒業し、都内の三井記念病院で5年間の外科研修をした後、当時新設の埼玉医科大学第一外科に入局し、以降35年間在籍しておりました。三井記念病院では消化器外科を中心に外科手術と共に上部消化管、下部消化管の内視鏡、ERCPなどに取り組みましたが、大学入局後は教授の指示で呼吸器外科を勉強することになりました。当時の大学には呼吸器外科の指導者がいなかったこともあり、入局早々に多くの肺手術を行っていた築地の国立がんセンター病院に勉強に出させてもらいました。その時全国から集まって築地で勉強した先生方は心強い仲間としてその後もずっとお付き合いさせていただいております。

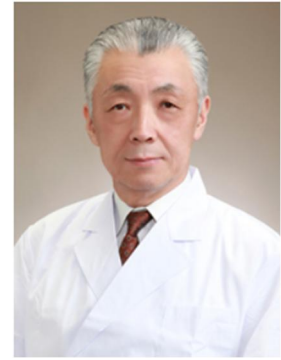
消化器内視鏡から気管支鏡の勉強に代わったわけですが、肺の外科が肺結核外科から肺癌外科に移行し、「呼吸器外科」という言葉もできて新たに呼吸器外科学会も誕生した頃でした。

呼吸器外科に専念し、何とか一人で肺癌手術などのマネジメントができる自信がついてきた1990年代初めになり胸腔鏡手術が登場し、今度は全く新しい手術手技を1から習得しなければならなくなりました。そこで1992年の2月に米国カリフォルニア大学で胸腔鏡手術のトレーニングコースを受講しcertificate(修了証)をいただいて戻り、その4月から胸腔鏡手術を始めました。米国でのトレーニングコースの受講は日本人では最初でしたが、本財団現理事の河野匡先生は当時インストラクターとしてご指導いただき、大変お世話になりました。胸腔鏡手術は気胸の手術に始まり、肺部分切除から肺葉切除へと安全性を第一に次第に適応を広げて参りました。

一方、気管支鏡も観察、生検のみでなく治療手段としても活用してきました。当初は気道異物の摘出、気胸や肺癰に対する気管支閉塞やフィブリン糊注入などを行っていましたが、その後ステント留置や光線力学治療(PDT)まで様々な気管支鏡治療に取り組んできました。気管支鏡専門医を認定してきた日本気管支学会は日本呼吸器内視鏡学会と名称変更し、日本医学会の分科会としても認められ、10万例以上の診断的気管支鏡の全国調査も行われています。縁あって日本呼吸器内視鏡学会の理事長を拝命し、気管支鏡専門医の質の確保に努めて参りました。また「気管支鏡テキスト」の改訂も行われました。これらは本財団現評議員の浅野文祐先生を中心にまとめられました。

このように多くの方々に支えられて今日まで取り組んでくることができました。皆様に感謝申し上げますとともに、本財団が内視鏡医学の普及、発展に寄与され、ますます発展されることを祈念いたしまして御礼のご挨拶といたします。本日は有難うございました。

東北労災病院 名誉院長 徳村 弘実 先生



この度は貴財団より栄誉ある顕彰をいただき、誠に光栄に存じます。
財団理事長の五十嵐良典先生をはじめ関係の各位に厚く御礼申し上げます。

私は 1978 年東北大学を卒業。東北大学旧第一外科に入局。1989 年より東北労災病院外科に入職しました。それから今日に至るまでの大部分を腹腔鏡下手術に取り組んでまいりました。

内視鏡外科の黎明期から 30 年以上にわたり、腹腔鏡下胆道手術、腹腔鏡下ヘルニア手術、腹腔鏡下大腸切除術に注力してまいりましたが、中でも国内の普及並びに手術の標準化と患者の QOL 向上に取り組んでまいりました。

また、内視鏡外科治療の可能性拡大を見据え、腹腔鏡下総胆管結石術に必須な軟性胆道鏡の技術開発（臨床評価等）や腹腔内蛍光観察などにも積極的に取り組んでまいりました。患者さんに恩恵の大きい画期的な手術と考え、ささやかながら情熱を傾けてまいりました。

また、腹部救急医療につきましては、胆石症による急性胆嚢炎・胆管炎の手術成績の向上と診療ガイドラインの論文執筆に携わるなど救急医療における腹腔鏡手術の普及拡大と安全な運用にも取り組んでまいりました。

更に、東北地区における腹腔鏡手術の普及の為、内視鏡外科フォーラムの立ち上げに携わり、現在も名誉理事長として腹腔鏡手術の普及・医師育成に務めております。

現在は、東北労災病院・名誉院長の傍ら、東北労災看護専門学校・学校長も兼任されており、チーム医療に欠かせない看護師育成にも務めています。

僭越ながら、私のこの仕事が今回の顕彰でお認めいただきましたこと、この上ない喜びでございます。今までご指導くださった全国先輩方、同僚の皆様、さらには貴財団、そしてオリンパス株式会社のおかげと深く感謝しております。

また、私は、平成 19 年から選考委員 5 年、平成 24 年から評議員 8 年、通算 13 年もの長きにわたり、当財団の助成事業の発展に携わることができ光栄に思っております。

最後になりますが、本財団の助成事業が今後も日本の内視鏡医学の研究発展に寄与されることを祈念しております。

本日は誠にありがとうございました。

公益財団法人早期胃癌検診協会 理事長 門馬 久美子 先生



この度は、内視鏡医学研究振興財団の顕彰をいただき誠にありがとうございます。理事長の五十嵐良典先生をはじめ関係者の方々に厚く御礼申し上げます。

私は、1979年に北里大学を卒業後、岡部治弥教授の消化器内科に入局し、5年間の研修後、1984年に大腸疾患勉強のため、田島強先生のおられる都立駒込病院消化器内科に移りました。

門馬が異動1年半後に食道癌の世界で既に有名な吉田操先生が食道外科に赴任され、駒込病院にも早期食道癌の患者が来られるようになりました。初めて食道粘膜癌を検査した時は興奮し、確定診断のため確実に生検しました。術後、吉田先生から「門馬君、病変が二つに分かれてました」と言われました。約4mmと薄い食道壁では、粘膜筋板まで生検することが可能で、生検により病変の形態を変える事がある事を知り、以後、どのような生検が望ましいかを学びました。

その頃、吉田先生から「早期の食道癌は手術でなく、内視鏡治療をする時代です、やりましょう。」と言われましたが、「私は内科医のため、無理です」とお断りしました。しかし、私の結婚の直前、少し余裕がある時に早期食道癌の患者が来院され、私の内視鏡治療の人生が始まりました。オリンパスの協力を得て、把持鉗子の開発、切除手技の工夫などを行い、1991年には「食道粘膜に対する内視鏡治療の開発と食道上皮内癌に対する治療の応用」というテーマではじめて内視鏡財団の研究助成を受賞しました。

病変の発見にヨード染色は有用ですが、ヨード剤で病変が剥け、病変の形が一時的に変化するという問題がありました。しかし、オリンパスが開発中のNBIを使用することで、病変の形態を変えずに早期癌が発見でき、診断出来るようになりました。食道癌は20%が多発で、10%に咽喉頭癌の合併があります。NBIを用いて咽喉頭を診ることで、咽喉頭の早期癌も診断できるようになりました。咽喉頭に関しては、既に研究を進めておられた元川崎市立川崎病院の大森泰先生に学ばせて頂きました。

内科医として初めて食道学会の会長もさせていただき、大変充実した人生を送らせていただきました。内視鏡治療の機会を下さった吉田操先生はじめ食道外科の先生方、共に治療した藤原純子先生をはじめとする消化器内科の先生方、詳細な診断を下さった病理の先生方、そして内視鏡室の看護師さん、学会発表用にいつも綺麗なビデオを制作して下さったオリンパス幡ヶ谷の映像チームの方々、大変お世話になりました。とても良いチームで取り組むことができ深く感謝しています。

今後より多くの先生が同様に良いチームを作ってこのような賞を受賞されることを祈念しています。本日は本当にありがとうございました。